

# 本当の広島姿

大館高校 一年

藤嶋

徹さん



私は、生涯忘れることがないであろうことを、この夏経験することができました。五日間という短

が漂う中、式典が始まりました。平岡市長による平和宣言、子供代表による平和への誓い、体が蒸さ

い時の中の経験で、自分は少しだけ心の大きな人間に成長できたよ

うな気がします。八月六日、広島平和祈念式典。平和公園で自分の前にそびえ立つ原爆ドームを目にした

とき、私は全身に冷たい何かが走るのを感じました。重々しい空気が



れる炎天下の中、参加者全員が真剣な眼差しで式典に参加しているのを見て、私はなんとも言えぬ感動を受けたのでした。そんな中、後ろの席に座っていた男性が「何のための戦争だったんだろう」とぼそつと言いました。私は、その言葉に深く考えさせられました。「何のため？」と……。結局私は今も答えを出せずにいます。

式典のあと、平和記念資料館へと向かいました。ある程度は覚悟していたものの、予想以上の光景に言葉を失ってしまいました。焼けただれた皮膚、爪先から出る緑色の液体それにともる青い火、全身火傷でもがき苦しむ人たち、これが私たちと同じ人間の姿なのかと思うと、あまりの残酷さに心がやみます。そして、原爆に対し強い怒りを感じたのでした。印象的

な思い出が、外国人の原爆への関心の高さでした。ハンカチを片手に資料を読む女性、涙を流しながらじつと写真を見つめる夫婦、その真剣な姿に強く胸を打たれたのでした。平和公園内には、多くの記念碑がありました。その中の一つ、原爆で引き起こされた火の海によって逃げ場を失った親子、胸と背に我が子を抱き、今まさに火の海を越えようとする「嵐の中の母子像」その像の説明をしていた老人の話は今も鮮明に覚えています。「この親子は、はたして生還できたと思いますか」この老人の問

いかけに私を含めだれひとりとして答えることはできませんでした。ある人の一言「原爆ドームは年々小さくなるようですね」なんと悲しい言葉でしょう。実際、日本の経済成長の中、原爆を浴びた建物も広島復興の名の下に次々と姿を消しました。また、戦争経験者の高齢化、非戦争経験者の増加により戦争、原爆への関心が低下しているというのも事実です。私は、一人の非力な小市民にすぎません。しかし、一人ひとりが戦争、原爆への関心を持ち、現実を

## 平和祈念 作文入賞者

### 小学生の部

#### 最優秀賞

渡辺麻衣子さん (長木小 6年)

#### 優秀賞

鈴木 瑞穂さん (川口小 5年)

平塚いずみさん (長木小 4年)

島内 佑子さん (城西小 6年)

平塚まどかさん (長木小 2年)

若松 志保さん (矢立小 2年)

高橋 愛さん (城南小 6年)

石田あやかさん (長木小 1年)

阿部 優人さん (雪沢小 6年)

斎藤 遙子さん (雪沢小 6年)

### 中学生の部

大庭 智沙さん (東 中 3年)

直視し、これからの未来を真剣に考えることができるのであれば、人間同士の醜い争いごとは無くなっ

#### 優秀賞

佐々木ふみさん (第二中 3年)

桜庭 香織さん (東 中 1年)

佐々木美香さん (下川浴中 3年)

松坂 高嗣さん (下川浴中 3年)

羽沢 彩子さん (第一中 2年)

佐藤 直美さん (東 中 1年)

柳谷 綾香さん (南 中 2年)

伊藤 貴子さん (南 中 2年)

山本のりえさん (東 中 1年)

#### 最優秀賞

藤嶋 徹さん (大館高校 1年)

#### 優秀賞

一関美香子さん (大館高校 1年)

金子 良子さん (大館高校 1年)

#### 一般の部

#### 最優秀賞

三浦 房子さん (商人留)

#### 優秀賞

新沢和花子さん (長 走)